

輪ギク「夏のあゆみ」は夏季の高温開花性に優れ、8月盆出荷に適する			
[要約] 輪ギク新品種(黄色)「夏のあゆみ」は夏季の高温開花性に優れ、8月盆の物日出荷に適する。慣行品種に代わる無シェード・パイプハウス栽培に適する品種として有望である。			
農業総合センター鹿島地帯特産指導所	平成23年度	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

神栖市における施設輪ギク生産では、近年夏季の異常高温から開花遅延が生じ、8月盆の需要期に間に合わないことが問題化しつつある。そこで、高温開花性に優れる品種の選定試験を行う。

2. 成果の内容・特徴

- 1)「夏のあゆみ」は、慣行品種より消灯後の到花日数が短い(表1)。8月9日には採花でき、8月盆の物日需要期に出荷できる。
- 2)「夏のあゆみ」の消灯後の花芽分化は、慣行品種より早く進む(表2)。
- 3)切花品質は、慣行品種より草丈が高く(表1)、特に消灯後の伸長が早い。「夏のあゆみ」は地上部重と調製重は軽いが、茎径は慣行品種とほぼ同等である(表1)。
- 4)「夏のあゆみ」の採穂数は、慣行品種に比べて少ない(表3)。
- 5)「夏のあゆみ」の生産者評価は、高温条件下での無シェード・パイプハウス栽培で、開花遅延が生じないことが、慣行品種より高く評価された(表4)。導入希望農家数は、8戸中7戸であり、慣行品種に代わる8月盆出荷用の品種として有望である。

3. 成果の活用面・留意点

- 1)試験圃場は酷暑条件を再現するため、施設の開閉温度を 30℃で閉まり、40℃で開くように設定した。
- 2)本成果は、パイプハウスにおける無シェード栽培での、単年度試験結果(平成 23 年度)である。
- 3)「夏のあゆみ」は、愛知県から平成 22 年8月 25 日に品種出願公表され、他県に種苗供給されている。栽培許諾は主に県、全農、出荷組合等の団体を対象とし、利用料は年間 15 万円×許諾期間の日数/365 日、穂として 100 本が供給される。
- 4)「夏のあゆみ」の名称は、平成 23 年6月 22 日に商標登録出願されている。

4. 具体的データ

表1 収穫調査^a

品種名	草丈 (cm)	調製重 ^b (g)	茎径 ^c (mm)	採花日 (月/日)	消灯後の 到花日数(日)
夏のあゆみ	131	63	6.0	8/9	61
慣行品種	110	72	6.2	8/16	67

^a 栽培概要: 所内パイプハウス(間口 5.7m×10m)での栽培。定植 5/11、消灯 6/10、
栽植は株間 7.5cm×条間 15cm の 4 条並列植えの無シェード栽培。施肥量は、
N-P₂O₅-K₂O=25-10-30 kg/10a。電照は 21 時から 2 時までの 5 時間。

^b 90cm 調製。

^c 花首下 20cm の最長茎径。

表2 消灯 14 日後の花芽分化ステージ^a

品種名	花芽分化 ステージ	総苞りん片多数 (3~4) ^b	小花原基形成 (5)	頂部は小花原基 未形成(6)
	夏のあゆみ		0	1
慣行品種		8	0	0

^a 6月 24 日に生育の中庸な株を8株調査した結果である。

^b ()内の数値は花芽分化ステージで、値が大きいくほど分化が進んでいることを示す。

表3 採穂数の違い^a(本/100 株)

品種名	3月4日	3月30日	4月8日	平均	計
夏のあゆみ	289	189	302	260	780
慣行品種	334	306	176	272	815

^a 無加温ガラス室での栽培(1 区 10 株、8 反復)。

表4 品種特性の概要および現地での導入希望

品種名	高温	ハダニ	ハモクリハエ	白さび病	生産者	導入希望
	開花性	耐虫性程度	耐虫性程度	耐病性程度	評価 ^b	生産者数
夏のあゆみ	3 ^a	3	3	3	3	7/8
慣行品種	1	1	5	5	1	0/8

^a 1:劣る、2:やや劣る、3:普通、4:やや優れる、5:優れる。

^b 所内試験圃場での採花時の立毛評価。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

砂質土壌の輪ギクにおける生理障害対策と土壌管理技術の確立・平成 23~25 年度・鹿島地帯
特産指導所